

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成25年1月25日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

江戸時代 & 現代の初任給事情

江戸の落語には、商家で働く小僧や手代、番頭が登場してきます。

1分銀1枚（4枚で小判1枚＝1両）で買い求めた埃まみれの太鼓の鳴る音によって、なんと300両で売却できてしまう、という落語の「火焰太鼓」でも、古道具屋の甥っ子が小僧となって登場します。

江戸では「小僧」と呼び、上方（大坂）では「丁稚」と呼ばれた奉公人たちは、将来は「のれん分け」などで独立する夢を持って働いていたのですが、毎月の賃金は住み込みの「衣食住」という現物給付のみでした。



山都町馬見原の町並み（山都町HP）

「日本の賃金労働者をとりまく環境の歴史的変遷（厚生労働通信）」から一部引用（抜粋）して、江戸時代のおおだなにおける平手代（新入社員に相当）の賃金事情をみてみたいと思います。

一般的な商家の従業員の職務階級は、見習いの「小僧、丁稚」。正社員の「手代」。従業員のトップの「番頭」へと昇進できる仕組みになっており、「手代」以上の従業員に現金給付（賃金支給）されていました。

なお、小僧（丁稚）はもちろん、手代も番頭も30歳（大店では40歳）近くまで、家庭を持つての通勤は許されなかったといえます。

「大店」における手代等の給金（銀）年額

単位：匁

平手代	平手代（1年目）	160
	中輩（次座以下の平手代）	180～190
	次座	200
	筆頭	210
	上座	270
役付手代	役頭	330
	組頭（2年目）	650
	組頭（3年目）	900
	組頭（6年目）	1800
支配役（番頭）	支配役並	1800
	支配役（1年目）	1800
	支配役（3年目）	2100
	支配役（5年目）	2700
	支配役（6年目）	3240

19世紀前半における給金推計（出典：厚生労働通信）

原典：西坂靖「越後屋京本店手代の小遣・年褒美・割銀について」（三井文庫叢書30）（一部抜粋・体裁変え）

大店においては、10歳ころに見習いの小僧（丁稚）で入職し、17、8歳で正社員の手代になるまでに30～40%が離職し、自宅通勤ができるようになる者は全体の10%弱であったといわれています。

さて、手代以上の正社員への給与は、「小遣」、「役料」と呼ばれ、三井の例によると、初任者である平手代1年目の1年間の給金は銀160匁であったそうです。

19世紀前半における江戸の物価は、次のとおりであったようです（金一両＝銀60匁＝銭6,500文）。

- ・米1升（1.5kg）＝100文
- ・蕎麦（そば）1枚＝8文～16文
- ・醤油1升（1.8L）＝60文
- ・ろうそく1丁（本）＝8文

・歌舞伎の棧敷席＝164匁（13,260文）

- ・宿泊代1泊2食＝248文
- ・長屋の家賃＝600文(7.5匁)
- ・駕籠(走行距離5キロ)＝200文
- ・大工手間賃(23人/1日)＝1両(18世紀後半)

平手代1年目の1年間の給金を現代の通貨に換算すると、「銀」160匁＝約3両になります。一般的に小判1両は約10万円に相当するといわれていますが、ここでは当時の大工さんの賃金で換算します。そうすると平手代の年収は約96万円ということになります。※参考資料「日本銀行金融研究所貨幣博物館のお金の歴史に関するFAQ」

つまり、「平手代の初任給」は、月給8万円程度(ボーナスなし)であったのであろうと推測されます。

しかし、月給8万円が毎月もらえたわけではなく、盆・正月の年2回に小額程度の現金が支給され。残りは退職金名目などとして積み立てをし、社内の運転資金に消えたりと、現実にはわずかな給金しかもらえなかったそうです。

日本銀行金融研究所貨幣博物館のホームページ(お金の歴史)についてはこちら → <http://www.imes.boj.or.jp/cm/index.html>

一方の現代の初任給、いわゆる「江戸期の平手代に相当する年齢の高校卒社員」の初任給事情を調べてみました。

平成24年7月に実施された「賃金構造基本統計調査(初任給)」の結果によると、高校卒男性の初任給は全国平均で160,100円となっており、前述の江戸期の平手代の約2倍(ボーナスを加えると約2.7倍に、また江戸期は名目的な賃金の色彩が強いために格差はそれ以上)になっているものと考えられることができます。

上記「賃金構造基本統計調査」における「九州・沖縄8県の学歴別初任給」は、次のとおりです。

九州・沖縄8県の学歴別初任給額

県名	男女計の平均 (農林水産業を除く産業全体の平均)									
	大学院修士課程修了		大学卒		高専・短大卒		高校卒			
	平成23年	平成24年	平成23年	平成24年	平成23年	平成24年	平成23年	平成24年		
	初任給	格差	初任給	格差	初任給	格差	初任給	格差	初任給	格差
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
福岡	219.2	86	190.4	85	179.4	93	161.0	91	151.1	92
佐賀	204.8	81	175.0	79	159.1	82	154.9	87	143.6	88
長崎	203.2	80	178.3	80	154.6	80	151.7	85	137.9	84
熊本	214.3	84	174.4	78	154.4	80	157.1	88	137.0	84
大分	181.5	71	170.2	76	158.5	82	152.0	86	147.9	91
宮崎	202.9	80	174.7	78	159.0	82	176.8	99	144.2	88
鹿児島	214.5	84	180.5	81	155.0	80	156.6	88	144.7	89
沖縄	229.0	90	165.3	74	157.5	81	142.0	80	128.2	78

出典：賃金構造基本統計調査

注：格差は、東京都を100とした場合である

【平成24年高校卒】の初任給は、145,800円(前年比+8,800円)、東京都との格差は変わらないが九州・沖縄8県の中では7位から3位に上昇(全国では、福岡30位、大分33位、熊本38位)。

【高専・短大卒】は、前年より2,700円増加の154,400円(九州・沖縄8県の中では8位から3位に上昇)。全国では、宮崎5位、福岡28位、熊本35位。

【大学卒】は、前年より15,900円増加の190,300円。九州・沖縄8県の中では6位から2位に(全国では、福岡18位、熊本24位)上昇しています。

「くまもと県」の初任給よ、もっと上昇を！！

賃金構造基本統計調査のHPIはこちらから → <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/12/index.html>



熊本県の統計情報は「<http://www.pref.kumamoto.jp/site/statistics/>」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、2月22日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部統計調査課交通政策・情報局 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話:096-333-2174 / Fax:096-384-7544 / メール:toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp